

---

 ニ ュ ー ス
 

---

## 日本の火山活動概況（2012年7月～8月）

気 象 庁



図 1. 2012年7月～8月に目立った活動があった火山

**択捉焼山 (45° 00′ 43″N, 147° 52′ 16″E)**

択捉焼山（標高 1158m）で噴火が発生した。8月25日 07時00分の気象衛星（MTSAT-2）画像で、噴煙を観測し、08時00分の衛星画像では海拔約4,000mの高さに達した。

択捉島を訪れていた北海道大学によると、噴火活動は8月15日から始まったと考えられ、25日と26日の2日間で合わせて4回の噴火が確認された。このうち1回は噴煙が海拔約4000～5000mの高さにまで達した。

**十勝岳 (43° 25′ 05″N, 142° 41′ 11″E)**

大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象が、6月30日夜から7月5日未明にかけて観測された。この現象は火口内での高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定される。これらの現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はなかった。

7月1日午前に実施した観測では、大正火口東壁の一部で従来より温度の高い領域を確認した。その後の観測

（7月4日、7日、8日、18日、20日）では、大正火口東壁に従来からある噴気孔の周辺に新たに小さな噴気孔が形成されていることを確認したが、高温領域は縮小しており、6月30日以前の状態に概ね戻ったものと考えられる。8月13日未明に大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測されたが、6月末の現象とくらべ、微弱であった。

大正火口の噴気量は、7月1日朝から2日にかけて一時的に増加し、噴出した火山ガスが十勝岳北西斜面を流下した。1日に実施したCOMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり600トンとやや多い状態であった。3日以降、噴気量は減少していることから、大正火口からの二酸化硫黄放出量も減少しているものと考えられる。

62-2火口の噴煙活動には特段の変化はなかった。

7月11日19時58分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生した。微動発生後から12日明け方にかけて振幅の小さな火山性地震が一時的に増加した。微動発生時の噴気の状態、空振計及び地殻変動データに特段の変化はなかった。震源はグラウンド火口周辺及び旧噴火口付近の浅い所に分布した。

GPS連続観測では、前十勝観測点において62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められている。より広域の地殻変動を示す変化は認められなかった。

**三宅島 (34° 05′ 37″N, 139° 31′ 34″E)**

噴煙高度は火口縁上100～300mで経過した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中4回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり800～1,000トン（前期間：400トン）と、やや多量の火山ガス放出が続いた。三宅島の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測された。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS連続観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続した。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられた。

**青ヶ島 (32° 27′ 30″N, 139° 45′ 33″E)**

海上保安庁が8月26日に実施した上空からの観測に

よると、これまで変色水の見られなかった島の南端から南東方向約 1300m 付近（水深 63m）に、直径約 900m 程度の円形の薄緑色の変色水が確認された。また、以前から小規模な変色水が確認されていた島の北端の海岸付近に多量の薄茶褐色及び薄緑色の変色水、島の南東端東側の海岸付近に薄茶褐色及び薄緑色の変色水が確認された。

遠望カメラによる観測では丸山西斜面に噴気は認められず、青ヶ島付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。GPS 連続観測でも、火山活動によるとみられる変動は認められなかった。

#### 硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると、島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）で、7月9日12時15分頃、白色の噴煙が約15m上がっているのが確認された。その後13時30分頃に、旧噴火口の周囲数10mに泥が飛散しているのが確認されたが、噴煙は確認されなかった。これらの事象が確認された時間帯に、火山性地震や空振、火山性微動は確認できなかったが、ごく小規模な水蒸気爆発が発生したものと考えられる。その後、噴煙等の発生は確認されなかった。硫黄島では、今年に入って、2月上旬、3月上旬及び4月上旬に、旧噴火口でごく小規模な水蒸気爆発が発生しているが、今回の噴火は前述の状況から、2月上旬に発生した水蒸気爆発より規模が小さいものと考えられる。

国土地理院の地殻変動観測では、今期間、ほぼ停滞している。火山性地震の発生回数は少ない状態で経過した。火山性微動は7月22日以降時々観測され、8月9日以降はほぼ毎日観測された。火山性微動の継続時間は30秒程度から5分程度のものがほとんどであったが、最も長いものは約16分30秒で8月17日に観測した。火山性微動を観測した時間帯に、火山性地震の増加や空振、表面現象は認められなかった。

島西部の阿蘇台陥没孔の噴気は10m~70mと少ない状態で経過した。島西部の井戸ヶ浜では噴気は認められなかった。

海上自衛隊の協力により、8月7日から10日にかけて以下の地域で現地調査を行った。

##### ・為八海岸（島北部）の状況

前回（2012年5月）の現地調査で、為八海岸付近の崖で新たな崩落が見つかり、崩落部から噴気が上がっていることを確認した。今回実施したこの噴気孔の調査では、崩落現場の地形や噴気の量にも特段の変化は認められなかったが、噴気の勢いは比較的強かった。また、この崩落箇所から離れた海岸付近で、新たな噴気を確認し

た。この噴気の噴気の温度は高く（約65℃）、周囲の岩石は白い変質物におおわれていた。熱赤外画像でも白い部分の温度が所々高くなっているのを確認した。前回、為八海岸の沿岸部で白色の変色水が湧昇しているのを確認したが、今回の調査ではそのような現象は認められなかった。

##### ・離岸温泉跡（島東部）の状況

離岸温泉跡では、噴気の高さは崖上から20m程度で、わずかな硫黄臭を確認した。2011年11月、2012年3月及び前回（2012年5月）の現地調査で、隆起により海岸線が後退して砂浜が拡大したと考えられたが、今回の調査では、地形に大きな変化は認められなかった。ただし、湯だまりが海岸線と並行して横に伸びていることを確認した。

##### ・阿蘇台陥没孔（島西部）の状況

阿蘇台陥没孔では、2012年3月及び5月の調査時と比較して水位はほとんど変わらなかった。また、今回も同様に間欠的な熱泥水の噴出を確認した。孔内から立ち上る噴気は、孔の上端から20m程度の高さに上がり、弱い硫黄臭を伴っていた。また、孔内の泥水の温度に特段の変化はなかった。

##### ・井戸ヶ浜（島西部）の状況

これまでの調査で井戸ヶ浜では所々変質物に覆われ、周囲より温度の高い場所が確認されている。今回行った上空からの観測では、前回（2011年11月）と比較すると、地熱域の位置や大きさにはほとんど変化はなかった。表層の地中温度は、80~100℃で、高さ5~10m程度の噴気が上がっている地熱域もあった。一部の地熱域では、地表面下から水の流れるような音がしたため、地下は空洞となっている可能性が高いと考えられる。

##### ・旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）の状況

ミリオンダラーホールの噴出孔周辺の地形は、前回（2012年3月）の調査時とくらべ、特段の変化は認められなかった。

##### ・摺鉢山の状況

前回（2012年3月）の調査時とくらべ、地形等に特段の変化はみられなかった。前回調査時は変質地帯の一部で弱い白色の噴気がみられたが、今回の調査では変質地帯のほぼ全面から噴気が立ち上り、硫黄臭を伴っているのを確認した。噴気温度は前回とほぼ変わらなかった。

##### ・その他の地域の状況

金剛岩、硫黄ヶ丘及び翁浜などその他の地域では、噴気や地熱、地形等の状況は、前回（2012年3月）の調査で確認された熱活動や地形と特段の変化は認められなかった。

**福德岡ノ場 (24° 17.1' N, 141° 28.9' E)**

8月9日に海上自衛隊の協力により気象庁が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる幅約200m、長さ約300mの青白色の変色水域が確認された。

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

**阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E)**

噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が最高で火山口縁上900mまで上がった。

湯だまり量は、6月中旬に3割まで減少したが、その後の降水の影響で7月下旬には9割まで増加した。赤外線映像装置の観測では、湯だまりの表面温度は57~66℃(前期間:63~73℃)でやや低下した。湯だまりの中央付近では噴湯現象を確認した。

南側火山口壁の最高温度は213~250℃(前期間:228~267℃)で大きな変化はなく、温度分布も特段の変化はなかった。

孤立型微動および火山性地震は、7月は少ない状態で8月はやや少ない状態で経過したが、2012年2月頃からわずかながら増加傾向を示している。孤立型微動の月回数は7月が669回、8月が1,025回、火山性地震の月回数は7月が626回、8月が951回であった。震源は、中岳第一火山口付近のごく浅いところ、及び中岳第一火山口の北東約6km、深さ2~4kmに分布した。また、継続時間の短い火山性微動が8月に2回発生し、継続時間の月合計はともに1分であった。

7月10日に実施したCOMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり400トン(前期間:500~600トン)であった。

**霧島山(新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))**

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火山口縁上200mまで上がった。

8月30日14時頃から17時頃にかけて、新燃岳の南西付近を震源とする振幅のやや大きなA型地震が一時的に増加した。地震増加時に、傾斜計及びGPS連続観測では特段の変化なく、火山性微動も観測されなかった。また、新燃岳火山口直下を震源とする地震活動にも特段の変化はなかった。噴煙の状況は、天候不良のため観測できなかった。火山性地震は8月30日に一時的に増加したものの、7月が17回、8月が37回で少ない状態で経過した。

火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月初め頃から鈍化し、2012年1月以降はほぼ停滞した。「えびの」-「牧園」基線では5月頃から、「牧園」-「都城2」では6月頃からわずかに縮みの傾向が見られている。

新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、8月30日の地震増加時も含めて火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

8月31日に実施したCOMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり10トンとごく少ない状態であった。

**桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))**

南岳山頂火山口では、7月24日19時15分に爆発的噴火が発生し、多量の噴煙が上がリ、大きな噴石が4合目(南岳山頂火山口より1,300~1,700m)まで達した。南岳山頂火山口で爆発的噴火が発生したのは、2011年2月7日以来である。

昭和火山口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は7月が59回(そのうち爆発的噴火は43回)、8月は76回(そのうち爆発的噴火は73回)であった。7月24日に発生した南岳山頂火山口の爆発的噴火以降、昭和火山口の爆発的噴火は一時的にやや増加し、7月25日に9回、26日に8回発生した。大きな噴石が3合目(昭和火山口から1,300m~1,800m)まで達する爆発的噴火が、7月と8月にそれぞれ1回発生した。7月26日14時21分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火山口縁上3,200mまで上がった。同火山口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中8回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は7月31日に観測された1日あたり5,200トンを最高に、1日あたり1,800~5,200トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水筒傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年2月以降、山体の変動は停滞していたが、8月はわずかに沈降した。南岳山頂火山口の7月24日19時15分の爆発的噴火に前駆して、山体浅部が膨張源とみられるわずかな地殻変動が観測され、噴火後には急激な収縮が観測された。

GPS連続観測では、2011年9月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていたが、2012年2月頃から鈍化している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、

始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、6月は70万トンで、7月は50万トンであった。今年1月から7月までの総降灰量は450万トンと昨年1年間の総降灰量（450万トン）と同程度になっている。

#### 薩摩硫黄島（30°47′35″N, 130°18′19″E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

#### 諏訪之瀬島（29°38′18″N, 129°42′50″E（御岳））

御岳火口では、爆発的噴火は発生しなかったが、長期

にわたり噴火を繰り返している。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震の月回数は7月が11回、8月が21回であった。B型地震の月回数は7月が123回、8月が39回であった。

7月24日から25日にかけて火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計は38時間5分であった。8月に火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

（文責：気象庁地震火山部火山課 末峯 宏一）

### 日本の火山活動概況（2012年9月～10月）

気象庁



図1. 2012年9月～10月に目立った活動があった火山

#### 白山（36°09′18″N, 136°46′17″E（御前峰））

白山北側の浅部を震源とする地震が、10月27日21時から28日02時頃にかけて多発した。最大のマグニチュード(M)は27日21時34分のM2.5（暫定値）で、震度1以上を観測する地震の発生はなかった。火山性微動は観測されなかった。その後、地震活動は静穏に経過した。

白峰（白山山頂の西12km）に設置してある遠望カメラによる観測では、山頂部に噴気は認められなかった。

#### 三宅島（34°05′37″N, 139°31′34″E）

噴煙高度は火口縁上100～500mで経過した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中3回実施）では、二酸化硫黄放出量は一日あたり500～700トン（前期間：800～1,000トン）と、やや多量の火山ガス放出が続いた。三宅村の火山ガス濃度観測によると、山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測された。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はみられなかった。

GPS連続観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続した。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられた。

**青ヶ島 (32° 27' 30" N, 139° 45' 33" E)**

東京都及び警視庁の協力を得て9月21日に実施した上空からの観測では、8月26日に海上保安庁によって確認された島の南東沖（島の南端から南東方向に約1,300m付近、水深63m）の変色水は認められなかった。従来から変色水が見られる島の北端の海岸付近では薄青色の変色水が、島の南東端東側の海岸付近では茶色の変色水が確認された。

遠望カメラによる観測では丸山西斜面に噴気は認められなかった。9月5日から6日に実施した現地調査では、丸山の西斜面とカルデラ内壁（北西～西）の地表面温度分布に特段の変化はみられなかった。調査地点の噴気はいずれもごく少量で、前回調査時（2012年2月）よりも減少していた。噴気温度はいずれも前回調査時と概ね同程度（約73～100℃）であった。

青ヶ島付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められなかった。

**硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))**

国土地理院の地殻変動観測では、地殻変動はほぼ停滞している。10月14日に火山性地震が一時的に増加したが、地震活動は概ね静穏に経過した。9月に火山性微動を19回観測したが、振幅は小さく、継続時間も30秒から3分程度と短いものであった。火山性微動を観測した時間帯に、火山性地震の増加や空振、表面現象は認められなかった。10月に火山性微動は観測されなかった。

島西部の阿蘇台陥没孔の噴気は0m～100mと少ない状態で経過した。島西部の井戸ヶ浜では噴気は認められなかった。

**福德岡ノ場 (24° 17.1' N, 141° 28.9' E)**

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われなかった。これらの機関のこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

**阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E)**

噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が最高で火口縁上500mまで上がった。

湯だまり量は9～10割で特段の変化はなかった。赤外熱映像装置の観測では、湯だまりの表面温度は49～59℃（前期間：57～66℃）とやや低下した。

南側火口壁の温度は、250～283℃（前期間：213～250℃）

とやや上昇したが、温度分布に特段の変化はなかった。また、9月24日に実施した夜間の現地調査では、第一火口南側の火口壁に赤熱を観測したが、前回（6月22日）実施した現地調査と比較して特段の変化は認められなかった。夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測したが、これは火口壁の赤熱によって生じたものと考えられる。

孤立型微動および火山性地震は2012年2月頃からわずかながら増加傾向を示していたが、9月中旬以降減少した。孤立型微動の月回数は9月が867回、10月が152回、火山性地震の月回数は9月が978回、10月が324回であった。震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところに分布した。継続時間の短い火山性微動が9月に1回発生した。

10月15日と19日に実施したCOMPASSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり700～900トン（前期間：400トン）とやや多い状態であった。

**霧島山 (新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))**

新燃岳では、今期間、噴火は発生しなかった。白色の噴煙が火口縁上200mまで上がった。

火山性地震の月回数は9月が69回、10月が49回と少ない状態で経過したが、6～8月に比べて9月以降わずかに多い状態が続いている。震源はこれまでと同様に、新燃岳付近の海拔下0～2km付近に分布した。

火山性微動は今期間観測されなかった。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月初め頃から鈍化し、2012年1月以降はほぼ停滞した。「えびの」-「牧園」基線では5月頃から、「牧園」-「都城2」では6月頃からわずかに縮みの傾向が見られている。

9月14日に、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て上空からの調査を実施した。火口内に蓄積された溶岩の北側から東側及び南側に複数の噴気孔がみられ、火口内にとどまる程度のごく少量の白色の噴煙が主に北側と東側から上がっていた。また、溶岩には複数の水たまりを確認した。前回（5月18日）の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状や火口内の噴気の状態に変化は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、噴気のみられる部分や火口内に蓄積された溶岩の縁辺部（特に南側）が比較的高温であった。西側斜面の割れ目では、噴気は確認できなかったが、赤外熱映像装置による観測では、前回の調査と同様にやや温度の高い部分が認められた。

**桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))**

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は9月が73回(そのうち爆発的噴火は48回)、10月は61回(そのうち爆発的噴火は35回)であった。大きな噴石が3合目(昭和火口から1,300m~1,800m)まで達する爆発的噴火が、9月と10月にそれぞれ2回発生した。9月24日12時52分に発生した爆発的噴火に伴う空振では、東郡元空振計(昭和火口から西へ10kmの鹿児島地方気象台)で61Paを観測した。この値は、2006年に活動を再開した昭和火口での噴火により東郡元空振計で観測された最も大きな値である。9月11日15時55分に発生した爆発的噴火ではやや多量の噴煙が火口縁上3,500mまで上がった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、9月20日、29日、30日にごく小規模な噴火が発生した。

火山性地震は、少ない状態で経過した。噴火に伴う火山性微動が発生した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測を期間中6回実施した。二酸化硫黄の平均放出量は10月29日に観測された1日あたり5,700トンを超え、1日あたり2,100~5,700トンと多い状態であった。

有村観測坑道の水筒傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2012年2月以降、山体の変動は停滞していたが、8月頃からわずかに沈降している。

GPS連続観測では、2011年9月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていたが、2012年2月頃から鈍化し6月頃から停滞している。また、国土地理院の地殻変動観測結果では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられる。

鹿児島県のデータをもとに解析した降灰量は、8月は30万トンで、9月は40万トンであった。今年1月から9月までの総降灰量は530万トンと昨年1年間の総降灰量(450万トン)より多くなっている。

9月14日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査では、昭和火口からは灰色の噴煙が北東へ流れていた。火口内は噴煙のため不明だったが、赤外線映像装置による観測では、噴煙の放出部分が高い温度となっていた。南岳山頂火口からは白色の噴煙が北東へ流れていた。火口内は、噴煙のため不明だったが、赤外線映像装置による観測では、前回(4月5日)と同様にB火口壁に熱異常域が認められた。

**薩摩硫黄島 (30° 47' 35" N, 130° 18' 19" E (硫黄岳))**

硫黄岳山頂火口では白色の噴煙が、最高で火口縁上700mまで上がった。同火口では夜間に高感度カメラで

確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

**諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))**

御岳火口では、爆発的噴火は発生しなかったが、9月28日以降ごく小規模な噴火が断続的に発生している。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過し、A型地震の月回数は9月が37回、10月が22回であった。B型地震の月回数は9月が86回、10月が78回であった。

9月27日以降、火山性微動が連続して発生している。火山性微動の継続時間の月合計は9月が67時間52分で、10月が705時間19分と大幅に増加した。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

(文責: 気象庁地震火山部火山課 末峯宏一)

**○人事公募****【群馬県立自然史博物館】**

1. 職種及び採用予定人員…学芸員、1名(地質、岩石・鉱物分野)
2. 主な勤務地…群馬県立自然史博物館(群馬県富岡市上黒岩1674-1)
3. 職務内容
  - (1) 群馬県の地質、岩石・鉱物の調査研究及び野外調査に関すること。
  - (2) 博物館資料(地質、岩石・鉱物)の収集・分類・保管・管理に関すること。
  - (3) 展示の企画・実施に関すること。
  - (4) 教育普及事業に関すること。
4. 採用時期と身分…採用時期:平成25年4月1日、身分:群馬県職員
5. 応募手続…履歴書、小論文、研究実績、証明書類の提出
6. 応募期限…平成24年10月3日(水17):00必着
7. 選考方法…第1次~第3次までの選考を経て採用者が決定する。

※第1次選考は応募書類による選考

8. その他…詳細事項は、「群馬県」のサイトで職員募集情報を確認する。

<http://www.pref.gunma.jp/07/c4200092.html>

◆提出及び問い合わせ先

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

群馬県生活文化部文化振興課

電話 027-223-1111 (内線 2596)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月4日送信しました)

【霧島ジオパーク】

霧島ジオパークでは、現在世界ジオパークを目指して様々な取組みを行っておりますが、この度、鹿児島県霧島市役所にジオパーク推進員(専門家)を正規雇用することが決定しました。

応募条件は次のとおりです

1. 平成25年4月1日において、満30歳以下の者(昭和58年4月2日以降に生まれた者)
2. 大学院修士課程を修了した者(平成25年3月31日までに修了する見込みの者を含む)
3. 大学又は大学院で地質学、火山学又は地理学に関する分野を専攻した者

【詳細】霧島市ホームページ

<http://www.city-kirishima.jp/modules/page002/index.php?id=165>

○申し込み締め切り：9月14日

霧島ジオパーク推進連絡協議会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月4日送信しました)

【北海道大学 大学院理学研究院】

1. 職種・人員・専攻分野

自然史科学部門 地球惑星システム科学分野

准教授1名

専攻分野：地球化学

2. 応募資格：博士号を取得していること。

宇宙惑星化学と惑星探査の最前線を独創的な研究により強力に推し進めていただける方。

本分野の教員と協力して教育研究をしていただける方。

全学教育(初年次教育)および地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育を担当していただける方。

3. 着任予定時期：2012年度のできるだけ早い時期

4. 応募書類

イ) 履歴書(内外の学会活動、受賞歴、参加している

プロジェクト研究歴、各種研究費、受領歴なども記載すること)

ロ) これまでの研究経過(2,000字程度)

ハ) 研究業績目録(和文のものは和文で表記すること)

A. 査読のある原著論文

B. 査読のない論文、総説など

C. 著書

D. 解説、報告などその他の出版物で特に参考になるもの

ニ) 主な原著論文の別刷10篇以内(複写可)

ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負(2,000字程度)

ヘ) 応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先(電話番号、電子メールアドレス)

5. 応募締め切り：2012年10月10日(月) 必着

封筒の表に「教員公募関係」と朱書きし、簡易書留または宅配便にて送付すること。

教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し、審査終了後には適切に処分します。

6. 備考 選考の過程で面接等を行うことがあります。

※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください。

北海道大学では男女共同参画基本法が制定されて以来、男女共同参画社会の実現を目指して、様々な取り組みを行っています。教員の公募に関しても、その精神に則り教員の選考を行います。詳しくは以下をご覧ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudosankaku/>)

7. 書類の送付先及び問い合わせ先：

〒001-0021 札幌市北区北21条西10丁目

北海道大学 創成研究機構 III

坂本尚義

電話：011-706-9173 (dial in) FAX：011-706-9173

電子メール：yuri@mail.sci.hokudai.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月13日送信しました)

【独立行政法人日本原子力研究開発機構】

平成25年度 日本原子力研究開発機構博士研究員の募集について

詳細は <http://www.jaea.go.jp/saiyou/internship/index.html> をご覧ください。

■募集人員：30名程度

■研究分野：計算科学、先端基礎研究、原子力基盤技術、安全研究、中性子科学、放射線利用研究、光量

子科学、放射光科学、核融合研究、高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発並びに、高レベル放射性廃棄物処分研究開発等

■応募資格 応募分野に係る博士号を取得している健康で研究を自主的に遂行する意志のある方。ただし、博士号の取得が平成17(2005)年4月1日以降である方に限る。

■応募締切：平成24年9月21日(金)必着

■契約開始日：原則として平成25年4月1日

■問い合わせ先 独立行政法人日本原子力研究開発機構 人事部人材戦略室(担当：森田)

TEL 029-282-1122 FAX 029-283-4701

e-mail jinji-saiyo13@jaea.go.jp

※研究概要等、テーマ内容については各テーマ担当者に問い合わせ下さい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月14日送信しました)

#### 【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：教授又は准教授 若干名
2. 期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日(1年間)
3. 申込資格：国立大学法人・公・私立大学及び国、公立研究機関の教授もしくは准教授又はこれに準ずる研究者
4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野の研究
5. 公募締切：平成24年10月31日(水)【必着】
6. 提出書類：
  - 応募用紙(様式1)1部
  - 履歴書(様式2)1部
  - 研究計画に関連した業績リスト(必ずタイプすること)
 出来れば参考となる主要論文の別刷1部  
 なお、応募に際しては必ず所属機関長の承諾を得ること。
7. 応募先：〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1  
 東京大学地震研究所 研究支援チーム(研究協力担当)  
 TEL 03-5841-5710  
 ※応募に関するお問い合わせは上記へお願いします。
8. 注意事項：客員教員応募書類在中の旨を記し、簡易書留で送付すること。
9. 選考方法：本研究所共同利用委員会が決定する。
10. 採否の決定：客員教員の採否は、本研究所共同利用委員会が決定します。  
 採否の決定は、平成25年3月下旬までに行われ、結果を書面により通知します。

※応募用紙は、<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html> からダウンロード願います。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました)

#### 【京都大学防災研究所火山活動研究センター】

##### 公募要項

1. 公募人員：准教授 1名
2. 所 属：地震・火山研究グループ 火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域
3. 研究内容等：
 

爆発的な様式で噴火活動を続ける桜島や関連した火山をテストフィールドとした地球物理学的手法に基づく火山観測により火山噴火予測を目指した研究を行い、当研究所が中核となって行う国内外の研究機関等との共同研究を推進する。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期：可能な限り早い時期
5. 勤務地：鹿児島県鹿児島市桜島横山町1722-19 桜島火山観測所
6. 応募資格：博士の学位を有すること。  
 国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
7. 提出書類：次の(1)～(6)各一式
  - (1) 履歴書
  - (2) 研究業績一覧(査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの)
  - (3) 主要論文別刷(コピー可5)編
  - (4) 研究業績の概要(A4用紙2枚以内)
  - (5) 今後の研究計画及び抱負(A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと。また、教育についても言及すること)
  - (6) 推薦書(または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先)
8. 公募締切：平成24年10月17日(水)【必着】
9. 書類提出先：
 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付  
 火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域 准教授候補者選考委員会 宛  
 (封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書き、郵送の場合には書留にすること)
10. 問い合わせ先：
 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付

火山活動研究センター 火山噴火予知研究領域  
 准教授候補者選考委員会 宛  
 e-mail : apply\_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp  
 (封書あるいは電子メールに限る)

11. その他 :

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。

なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。詳細は京都大学防災研究所ホームページの職員公募欄を参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月27日送信しました)

【九州大学】

1. 職名・人員：教授1名
2. 所属：基幹教育院 教育実践部 自然科学部門（地球惑星科学分野）
3. 職務
  - (1) 地球惑星科学の分野における教育・研究
  - (2) 基幹教育院が企画運営する全学的な教育活動
  - (3) 学府、学部等の教育・研究に関する活動
4. 応募条件：次の各号の条件を満たす者
  - (1) 博士の学位を有する者又は学位取得見込の者（学位取得見込者は取得予定時期を履歴書に明記のこと）
  - (2) 地球惑星科学の分野における教育・研究を基盤にした優れた業績を有する者
  - (3) 基幹教育で実施する授業並びに自らの専門分野における学士課程教育及び大学院教育の授業が担当できる者
  - (4) 全学的な教育に関心を有し、教育方法や学習方法等の改善・設計に意欲を持っている者
5. 着任時期：平成25年4月1日以降のなるべく早い時期
6. 提出書類（提出書類は紙媒体とする。ただし、(1)と(2)については、電子媒体も添付のこと。）
  - (1) 履歴書（A4版、写真貼付、連絡先とメールアドレスを明記のこと）
  - (2) 研究活動実績と研究業績目録（1 審査付学術誌の原著論文、2 その他の論文等、3 学術的著書等、4 学会等における発表、5 科研費等の競争的資金の取得状況、6 その他必要と判断されるもの）
  - (3) 教育活動実績・社会活動実績一覧
  - (4) 主要業績5編以内 各1部（電子媒体があればそ

れも添付のこと）

- (5) 着任後の教育及び業務に関する抱負（A4版2000字程度）
- (6) これまでの研究概要と着任後の研究に関する抱負（A4版1000字程度）
- (7) 応募者について問い合わせのできる方3名の氏名と連絡先及びそのうち少なくとも1名からの推薦状。ただし、推薦状に関しては、応募書類とは別便で推薦者の方が下記「書類提出先」に応募期限までにお送りいただいても結構です。なお、電子メールやファックスによる推薦状は受け付けません。以上の書類を封筒に同封のうえ、表面に「基幹教育院教員 教育実践部 自然科学部門（地球惑星科学分野）教授応募書類在中」と朱筆し、簡易書留で郵送すること。応募書類は、原則として返却しません。返却を希望する場合は、返信用の封筒（宛名を記し、必要額の切手を貼付したもの）を同封してください。

7. 応募締切り：平成24年12月3日（月）17時までに必着のこと
8. 選考方法：選考に当たっては面接を行う場合があります。ただし、その際の旅費・滞在費は応募者の自己負担とします。
9. 書類提出先及び問い合わせ先  
 提出先：〒819-0395 福岡市西区元岡744  
 九州大学 基幹教育院 院長 丸野俊一  
 問い合わせ先：基幹教育院 院長代理 若山正人  
 E-mail : koubo@artsci.kyushu-u.ac.jp  
 基幹教育院については、ホームページ <http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp> をご参照ください。  
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月1日送信しました)

【海洋研究開発機構 地球内部ダイナミクス領域】

勤務地：独立行政法人海洋研究開発機構  
 横須賀本部 神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
 若しくは 横浜研究所 神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25

採用形態

【募集人数】12名

【雇用形態】任期制職員、裁量労働制

【雇用期間】

研究職：平成25年4月1日～平成30年3月31日

- 1) 研究員：1回の任期を最長5事業年度までとし、以降更新は行わない。

任期終了時まで主任研究員（任期は最長10事業年度）への昇格審査あり。

- 2) 主任研究員：1回の任期を最長5事業年度までとし、契約更新をする場合があります。

ただし、通算雇用継続期間は10事業年度を限度とする。

技術研究職：平成25年4月1日～平成28年3月31日 1回の任期を最長3事業年度までとし、契約更新を可能とする。ただし、通算雇用継続期間は6事業年度を限度とする。

#### 応募方法

応募書類：

研究職・技術研究職

- 1) これまでに行ってきた研究の要約1通（A4一枚程度）
- 2) 当領域における研究計画1通（A4一枚程度）
- 3) 所見をいただけるによる本人のリファレンスレターまたは推薦書2通  
（所見をいただける方より、直接、人事担当宛郵送のこと。封筒に「応募者名」を明記のこと。）  
（当機構役職員及び招聘者は推薦者にはなれませんのでご留意ください）
- 4) 履歴書（応募職種（研究職もしくは技術研究職）を記載1）通  
（様式自由 連絡先E-mailアドレス記載のこと）
- 5) 研究業績リスト1通  
（論文リストは、レフェリー制のあるジャーナルとその他の研究、学術出版物に分けること。）
- 6) 主要論文（2編以内）の別刷またはコピー
- 7) これまでに受けた競争的資金（科学研究費補助金、科学技術振興機構からの受託研究費など）のリスト1通

提出方法：郵送による。

注）郵送以外は受け付けません

提出先：

〒237-0061 横須賀市夏島町2番地15

独立行政法人海洋研究開発機構

研究支援部支援第1課 人事担当室

（封筒の表に「IFREE 研究職・技術研究職 応募」と朱書きのこと）

※公募締切後、書類選考を行い、書類選考通過者について面接を行い、採用を決定します。

面接は平成24年12月頃を予定しています。

※面接旅費は海外からの移動に限り、規定に基づき支給する場合があります。

応募締切：平成24年11月20日（火）必着

ただし、応募者数が想定する人数に満たない場合は、募集期間を延長することがあります。

お問い合わせ先

独立行政法人海洋研究開発機構

研究支援部 支援第1課 人事担当 庵原

TEL 046-867-9415 FAX 046-867-9372

E-mail：rsd-jinji@jamstec.go.jp

※E-mailによる問い合わせの際は、件名に必ず「IFREE 研究職・技術研究職公募について」を入れて下さい。

JAMSETC 採用サイト URL

[http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/ifree20121120\\_2.html](http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/ifree20121120_2.html)

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月19日送信しました）

#### 【山形大学理学部地球環境学科】

##### 1. 職種・人員 助教 1名

任期制：平成25年4月1日から1年間（契約更新1回可：平成26年4月1日から1年間）

給与：年俸制（年俸440万円程度、本学規定による。）

##### 2. 所属部局とスタッフ 山形大学理学部地球環境学科（講座制なし）

田中久雄 岩石学（平成27年3月末で定年）

長谷見晶子 地球物理学

中島和夫 鉱床学

丸山俊明 地質学

柳澤文孝 地球化学

鈴木利孝 地球化学

Richard W. Jordan 海洋学

伴 雅雄 岩石学

本山 功 地質学

加々島慎一 岩石学

岩田尚能 地球年代学

新任教員 地球物理学（選考中：平成25年4月1日着任予定）

##### 3. 専門分野 岩石学に関する分野

##### 4. 応募資格

（ア）博士の学位を有する方

（イ）優れた研究業績があり（査読付原著論文またはそれに準ずるものが4編以上。ただし2編以上が英文）、着任後も当該分野の研究を意欲的に推進できる方。岩石分野にはEPMA、XRF、ICP-MS、Laser-Raman、XRD等があります。

（ウ）学科開講科目の「岩石学実験」と「鉱物学」を担当可能な方。「野外実習」と「自然科学基礎実験」の一部もご担当いただきます。なお、学科

開講科目のほかに、全学の基盤教育(教養教育)、学部共通教育を担当していただくことがあります。

(エ) 学科の教員と協調して意欲的に教育研究にあたり、学科の発展に大きく貢献しうる方。

5. 着任時期 平成 25 年 4 月 1 日

6. 提出書類 (各 1 部)

(ア) 履歴書 (高校卒業以降、賞罰、所属学会、連絡先の電話番号と電子メールアドレスを明記し、写真貼付のこと)

(イ) 研究業績リスト (査読付き原著論文、著書、総説・報告などに区分すること)

(ウ) 主要論文の別刷 5 編以内 (コピー可)

(エ) これまでの研究経過 (2000 字程度)

(オ) 着任後の教育と研究に関する抱負 (2000 字程度、地方大学の教員としてどのように教育と研究に臨むかという視点を含むこと)

(カ) 科研費等研究助成金の獲得状況、特許、受賞、国際共同研究、国際会議招待講演、社会連携や地域貢献、学会での活動状況、学外学内委員会等の役職歴をまとめた文書

(キ) 応募者についてご意見をいただける方の連絡先 (お二人まで)

(ク) これまでに担当された授業の一覧 (常勤・非常勤を区別して)

(ケ) 卒業論文、修士論文、博士論文等の指導実績一覧 (いままで指導した論文の種類、年号、タイトル、および主たる指導か補助的な指導の別を明記すること)

7. 書類提出締切 平成 24 年 11 月 20 日 (火) 必着

8. 書類提出先

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12 山形大学理学部地球環境学科長

(郵送の際は公募書類在中と朱書願います。宅配便等の品名欄には公募書類と明記願います。)

9. 問い合わせ先

学科長 柳澤文孝

TEL&FAX 023-628-4648

E-mail : yanagi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

10. その他

・応募書類は原則として返却できません。当方で責任をもってシュレッダー廃棄処分いたします。

・大学卒業証明書や健康診断書等、提出書類の追加を求める場合があります。

・面接や模擬授業をおこなっていただくことがあります。その際の旅費等とはご負担願います。

・国立大学法人山形大学の規定により定年は 65 歳です。

・山形大学は男女共同参画を積極的に推進しています。(男女共同参画推進室ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>)

・地球環境学科の詳細は次の学科ホームページでご覧になれます。 <http://ksgeo.kj.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 22 日送信しました)

#### 【東京大学地震研究所】

1. 職種:特任研究員(特定短時間勤務有期雇用教職員(非常勤))

2. 研究テーマ:以下の 6 テーマ(順不同)を対象とする。

(1) 媒質境界と相互作用する動的破壊現象の力学解析 (亀 伸樹)

(2) 「データ駆動型モデリング」による固体地球科学現象の解明 (小屋口剛博)

(3) 地震波動解析による西南日本に沈み込むプレート構造の解明 (小原一成・古村孝志)

(4) 日本列島スケール 3 次元電気伝導度構造を求めるためのデータのコンパイルならびに解析 (上嶋 誠)

(5) 超巨大地震の長期評価手法研究分野 (鶴岡 弘・平田 直・佐竹健治)

(6) 地殻・マントル岩石レオロジー (平賀岳彦)

3. 募集人員: 若干名

4. 応募資格: 着任時に博士の学位を有する者。

応募前に各テーマの担当教員に連絡し、よく相談すること。

5. 採用予定時期: 2013 年 4 月 1 日以降の着任可能な日

6. 任期・再任: 任期は着任日から 2014 年 3 月 31 日まで。再任は 1 回のみ。

7. 待遇: 東京大学特定短時間勤務有期雇用教職員の就業に関する規程の定めるところによる。

勤務時間は週 35 時間。

8. 選考方法: 原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。

9. 提出書類:

・履歴書 (市販用紙。東京大学統一様式 [http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html) でも可)

・研究業績リスト (査読の有無に分類)

・主要論文の別刷り 3 編 (学位論文は要旨のみ)、コピーも可

・研究歴 (A4 用紙 2 枚以内)

- ・採用後の研究計画（A4用紙2枚以内）、研究テーマ（上記2）を明記のこと。
- ・応募者について意見を伺える方1~2名の氏名及び連絡先

10. 応募締切：2012年11月28日（水）必着

11. 提出書類送付先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム（人事）

電話 03-5841-5668

注意：封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上、書留にて郵送のこと

12. 問い合わせ先：

（公募全般について）東京大学地震研究所  
数理系研究部門 宮武 隆

電話：03-5841-5696

電子メール：miyatake@eri.u-tokyo.ac.jp

（各テーマについて）各担当教員（連絡先などの問合せは上記宮武まで）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月26日送信しました）

#### 【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：准教授1名
2. 研究分野：地震津波災害情報統合分野地震津波災害情報統合分野は、地震・津波・災害の観測およびシミュレーションによる膨大なデータを余すことなく使い、総合的な知見を抽出・創出することを目指す分野である。そのため、新しい理論・モデルの構築等によりシミュレーションの進化を促す研究も視野に入れている。

固体地球科学や地震工学の枠にとらわれず、計算・情報科学の研究者や、大規模計算・データ同化の経験を持つ研究者、そして本研究所巨大地震津波災害予測研究センターの中核として計算科学を軸とした学際融合研究を推進するリーダーとなる人材を募集する。

なお、本公募で採用された教員は、大学院教育にかかわることも期待されている。

3. 採用予定時期：平成25年4月1日以降、採用決定後のできるだけ早い時期
4. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
5. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織（分野）の職に5年以内の任期を定める。

再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限

り可とする（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。

なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

6. 提出書類：

- (1) 履歴書（市販用紙可）
- (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
- (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
- (4) 研究業績の概要（2000字程度）
- (5) 今後の研究・教育計画（2000字程度）
- (6) 公募分野に関する研究戦略（様式自由）
- (7) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先とE-mailアドレス

7. 応募締切：平成25年1月15日（火）午後4時必着

8. 問い合わせ先：東京大学地震研究所 火山噴火予知研究センター 武尾 実

TEL：(03) 5841-5707 FAX：(03) 3812-6979

E-mail：takeo@eri.u-tokyo.ac.jp

9. 応募書類提出先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム（人事）宛封書を用い、表に「地震津波災害情報統合分野 准教授応募書類在中」と朱書き、書留郵便で送付してください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月14日送信しました）

#### ○その他の公募

【山田科学振興財団 研究援助のご案内（締切：平成25年1月31日）】

援助対象 自然科学の基礎的研究に対して、研究費の援助をします。

実用指向研究は援助の対象としません。

- 1) 萌芽的・独創的研究
- 2) 新規研究グループで実施される研究
- 3) 学際性、国際性の観点から見て優れた研究
- 4) 国際協力研究

助成金の内容 1件当たり100~500万円 総額3000万円（15件程度）

援助金は給与に充てることはできません。特に財団が指定した場合を除き、給与以外の用途は自由です。援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の約2年間とします。

援助対象期間 平成25年9月~平成27年3月に行われる研究

締 切 日 平成 25 年 1 月 31 日

応募方法 援助内容および応募の詳細は山田科学振興財団のホームページ <http://www.yamadazaidan.jp/enjyo2.html> を参照してください。

応募には所属学会の推薦が必須です。上記締切日は火山学会推薦の締切日です。応募希望者は、山田科学振興財団のホームページから推薦書用紙をダウンロードし、「学会推薦欄」を除く各欄に必要な事項を記載してください。必要書類（推薦書と添付書類）を紙媒体と電子媒体（CD または USB メモリ）の両方で作成してください。紙媒体の書類を火山学会宛に、電子媒体の書類を山田科学振興財団宛てにお送り下さい。火山学会では上位 2 件を推薦します。

書類送付先

紙媒体

特定非営利活動法人 日本火山学会  
〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9 モンテベルデ第 2 東大前 406 号

電子媒体（CD または USB メモリ）

公益財団法人 山田科学振興財団  
〒544-8666 大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号  
電話 大阪 (06) 6758-3745 (代表)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 11 日送信しました)

【平成 24 年度地震火山災害予防賞公募のお知らせ】

1. 表彰対象者（地震研究所 地震火山災害予防賞規則 第 3 条）

次の各号のいずれかに該当する者等を震災予防賞の表彰対象とする。受賞者の所属、身分は問わない。

ただし、過去に震災予防協会賞を受けたものは選考対象から除く。

- 一 野外観測・室内実験の技術的支援によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。
- 二 災害記録や古文書の発掘・整理によって、地震及び火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。
- 三 その他の技術的支援によって、自然災害の予防軽減及び地震工学の発展に功績のあったと認められる者。

2. 応募方法

候補者の氏名・所属・推薦理由（自薦・他薦を問わない）を A4 用紙（別紙様式）にまとめ、以下の選考

委員会へ提出してください。提出書類は返却しません。

また応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

3. 応募締切

平成 24 年 10 月 31 日（水）午後 5 時

4. 応募書類提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1  
東京大学地震研究所事務部庶務チーム宛  
封書を用い、表に「地震火山災害予防賞応募書類」と朱書してください。

5. 表彰等

- 一 地震火山災害予防賞の表彰は、例年 1 月に実施する地震研究所職員研修会の際に行います。
- 二 受賞者には、研修会の中で特別講演（15 分程度）をお願いします。

6. 問い合わせ先

東京大学地震研究所海半球観測研究センター  
川勝 均  
TEL：(03) 5841-5817

E-mail [hitosi@eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:hitosi@eri.u-tokyo.ac.jp)

7. 震災予防賞受賞者一覧

URL：<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/jishinkazanyobosyo/>  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 11 日送信しました)

【共同利用の公募（東京大学地震研究所）】

1. 公募事項（公募要領を参照）

- (1) 共同研究
- (2) 研究集会
- (3) 施設・実験装置・観測機器等の利用
- (4) データ・資料等の利用

2. 申請資格：国立大学法人、公、私立大学及び国、公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

3. 申請方法：平成 25 年度より Web 申請を開始いたします。

共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>) にある「所定の様式」に必要な事項を記載のうえ申請してください。) なお、一般共同研究、研究集会については、研究代表者が申請してください。

4. 研究期間：研究期間は、平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までとする。

5. 審査の方針：本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。

研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。また、本研究所との研究活動の

関連性や施設・装置・データとの関連性も審査の対象となります。なお、特定共同研究(A)(B)(C)に関しては、今回提出いただいた参加申請書を地震研究所が取りまとめ、研究代表者に送ります。それを受けて研究代表者によりとりまとめられた「計画調書」(12月中旬締め切り)が審査対象となります。

6. 申請期限：平成24年10月31日(水)【厳守】  
 7. 承諾書の提出：上記締め切り後2週間以内に所属機関長等の承諾書(様式11)を下記住所まで郵送願います。(異動等があった場合は、新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください。)  
 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所研究支援チーム  
 (研究協力担当)

8. 採否の決定：共同利用の採否は、本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は、  
 平成25年3月下旬までに行われ、審査結果を課題代表者及び研究代表者あて通知します。  
 9. 所要経費：共同利用に必要な経費及び旅費は、予算の範囲内において地震研究所が支出します。  
 10. 報告書：全ての共同利用者※は、研究期間終了後30日以内に共同利用実施報告書をWebシステムにて提出していただきます。

各共同利用・研究課題に関する報告書の様式については別途お知らせします。

なお、予知公募研究については、報告書に代えて毎年度末に予知研究成果報告書を提出していただきます。また、特定共同研究(B)については、年次ごとの報告書に加えてプロジェクト終了年度に最終研究報告書(様式については別途お知らせします)を提出していただきます。

※(特定共同研究の場合「課題代表者」、一般共同研究、予知公募研究及び研究会集の場合「研究代表者」、施設・観測機器・データ等の利用の場合「申込者」)

11. 謝辞等の記載：本研究所の共同利用で行われた研究に関する論文を発表する場合は、  
 謝辞に地震研究所共同利用を利用した旨の文章を入れ、その別刷を提出していただきます。  
 12. 宿泊施設：本研究所には宿泊施設がありませんので、各自用意してください。  
 13. 注意事項：  
 (1) 施設等の利用にあたっては、本研究所の規程、その他関係法令を遵守するとともに、管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。  
 (2) 予算の執行、研究の実施、設備の利用については、所属担当教員と十分に連絡を取り、かつ、関係す

る教員の指示に従ってください。

- (3) 本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。

また学生が共同研究に参画される場合は、(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険(学災教)」等に加入してください。

- (4) 本共同利用によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に対応教員及び研究分担者にご連絡ください。

併せて、所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。

権利の持ち分、出願手続き等については協議の上、決定いたします。

- (5) この他、公募に関するお問い合わせは研究支援チーム(研究協力担当)へお願いします。

#### 【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム(研究協力担当)

電話：03-5841-5710

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodo@eri.u-tokyo.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました)

#### 【「環境賞」候補募集のご案内】

第40回「環境賞」候補の募集をしています。

- 対象：環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動
- 表彰

- ・環境大臣賞
- ・優秀賞(副賞100万円)
- ・優良賞(副賞50万円)

- 締切(昨年より1ヶ月早くなりました。ご注意下さい)  
2012年12月21日(金)

- 募集要項・申請書

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/works/work01.html>

- 主催：日立環境財団、日刊工業新聞

- 後援：環境省

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月12日送信しました)

#### 【平成25年度共同研究の募集について(京都大学防災研究所)】

1. 公募事項

- A. 防災研究所外の国内外の研究者を研究代表者とする共同研究
- 1) 一般共同研究
  - 2) 萌芽的共同研究（注1）
  - 3) 一般研究集会
  - 4) 長期滞在型共同研究（注2）
  - 5) 短期滞在型共同研究（注2）
- （注1）大学院生（博士後期課程）および所内研究者が研究代表者となることも可
- （注2）大学院生（博士後期課程）が研究代表者となることも可

- B. 自然災害研究協議会が企画提案する共同研究
- 6) 重点推進型共同研究
  - D. 所外利用者による施設・設備利用の共同研究
  - 9) 施設・設備利用型共同研究

なお、これらのほかに、拠点研究（C. 7）・8）があります。

これは防災研究所の所内教員が研究代表者となるもので、所内の公募に限らせていただきます。

2. 申請資格：
 

国立大学法人、公・私立大学、国立研究機関及び独立行政法人機関の教員・研究者又はこれに準ずる国内外の研究者で、京都大学防災研究所の教員以外のもので、

ただし、萌芽的共同研究、長期・短期滞在型共同研究は大学院生（博士後期課程）が研究代表者となることもできます。

また、萌芽的共同研究については、必要な場合に限り防災研究所の教員も代表者となることができます。
3. 申請方法：所定の様式による申請書に必要事項を記載の上、各1部を提出ください。
- 申請書は電子媒体の添付ファイルで送信ください。
4. 研究期間：別紙共同研究公募要領のとおり
5. 申請期限：平成24年12月14日（金）
- 施設・設備利用型共同研究は随時受け入れ
6. 提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄  
 京都大学宇治地区事務部研究協力課共同利用担当  
 (E-mail: kyodo2013@dpri.kyoto-u.ac.jp  
 Tel; 0774-38-3350 Fax; 0774-38-3369)  
 ※提出後3日以内に「受領確認」の返信がない場合はお問い合わせください。
7. 選考及び通知：申請課題の採否は、公正な審査を行い、防災研究所共同利用・共同研究拠点委員会にて決定します。
- 採択決定通知は申請者あて3月下旬（予定）に行います。経費通知は6月頃の予定です。

8. その他：
  - 1) 本共同研究に関する事項・申請書の様式は、Webサイトで確認することができます。  
 (http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web\_j/index\_topics.html)
  - 2) 申請は、それぞれ別紙様式によるものを使用してください。

書式「Microsoft Word 形式のみ」が必要な場合は上記ホームページからダウンロードしてください。

日本語版募集ページ：  
 http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web\_j/contents/leftmenu\_kyodo.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月19日送信しました）

- 講演会等のお知らせ
- 【JAEA 東濃地科学センター H24 年度「情報・意見交換会」開催のご案内】
- 【独立行政法人日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター】
- 「平成24年度 東濃地科学センター 地層科学研究 情報・意見交換会」
- 日時：平成24年11月14日（水）13：00～17：00
- 場所：瑞浪市地域交流センター「ときわ」  
 (岐阜県瑞浪市)
- ※定員：約150名
- 「瑞浪超深地層研究所 深度300m 水平坑道見学会」
- 日時：平成24年11月15日（木）9：15～12：00
- 場所：瑞浪超深地層研究所
- ※定員：40名
- ※いずれも、申込者が多数の場合は、先着順とさせていただきます。ご了承下さい。
- ※入場無料（事前の申し込みが必要です。）
- ※締切 10月31日までにお申し込み下さい。
- 申込先  
 独立行政法人 日本原子力研究開発機構  
 東濃地科学センター 瑞浪超深地層研究所  
 地層処分研究開発部門  
 結晶質岩工学技術開発グループ  
 E-メールアドレス：tono-koukankai2012@jaea.go.jp  
 ホームページアドレス：  
 http://www.jaea.go.jp/04/tono/index.htm
- （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました）

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム】  
 「ウインター・サイエンスキャンプ'12-'13」参加者募集  
 開催日：2012年12月23日～2013年1月11日の期間  
 中の2泊3日～3泊4日  
 対象：高等学校、中等教育学校後期課程または専門学校  
 校（1～3学年）  
 会場：大学、研究機関等（11会場）  
 定員：受け入れ会場ごとに10～24名（計198名）※前  
 年度平均応募倍率2.6倍  
 参加費：2000円（食費の一部に充当）、プログラム期  
 間中の宿舎や食事は主催者が用意します。  
 ※現地集合・現地解散です（自宅と会場間の往復交通  
 費は自己負担となります）。  
 応募締切：2012年11月6日（火）必着  
 主催：独立行政法人 科学技术振興機構  
 共催：受入実施機関  
 応募方法：Webより募集要項・参加申込書を入手し、  
 必要事項を記入の上事務局宛送付  
<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/>  
 スマートフォンサイト：  
<http://rikai.jst.go.jp/sciencecamp/camp/sp/>  
 応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局  
 （公財）日本科学技术振興財団 振興事業部内  
 TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014  
 E-mail：camp@jsf.or.jp  
 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月  
 12日送信しました）

【公開講演会「富士山・オーロラ・恐竜科学の最前線」】  
 日本地球惑星科学連合/広報普及委員会は、11月25  
 日（日）に東京で「富士山・オーロラ・恐竜科学の最前  
 線」と題する公開講演会を開催します。  
 対象としては主に学校の先生や中高生を想定しており  
 ますが、大学生・大学院生、研究者、一般の方々のご参  
 加も歓迎いたします。  
 なお、参加される場合には事前登録をお願いいたしま  
 す。  
 下記サイトにてお申込みください（先着170名様）：  
[http://www.jpogu.org/whatsnew/20121125JpGU\\_sympo/  
 index.html](http://www.jpogu.org/whatsnew/20121125JpGU_sympo/index.html)  
 #詳細情報はこちらをごらんください。

■日本地球惑星科学連合2012年 秋の公開講演会  
 ～富士山・オーロラ・恐竜科学の最前線～  
 日時：2012年11月25日（日）14：00～16：00  
 （13：30開場）

場所：東京大学本郷キャンパス 小柴ホール（理学部1  
 号館2階）  
 （東京都文京区本郷7-3-1 東京大学内）  
 主催：日本地球惑星科学連合  
 ○藤井敏嗣（NPO 環境防災総合政策研究機構）  
 「富士山の大规模噴火はあるか」  
 ○高橋幸弘（北海道大学）  
 「スプライト・オーロラから迫る新しい宇宙-地球観」  
 ○小林快次（北海道大学総合博物館）  
 「恐竜の鳥類化」  
 ○総合討論  
 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月  
 22日送信しました）

【富士火山基礎研究ワークショップ】  
 主催：新学術領域研究「地殻流体：その実態と沈み込み  
 変動への役割」  
 日時：2012年11月19日（月曜13）：00-18：00  
 場所：東工大岡山キャンパス石川台2号館（地惑星科  
 学専攻315）会議室  
 趣旨：

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以  
 降、我が国の活火山の活動活発化が懸念されています。  
 とりわけ、富士火山は我が国最大の活火山であり、その  
 火山活動の仕組みや火山深部に広がるマグマ供給系の実  
 態の正確な理解が強く求められています。この研究会は  
 富士火山の深部構造とその火山活動の仕組みに焦点を当  
 て、最新の知見を分野の異なる研究者間で共有し、相互  
 に補い合うための討論を目的としています。富士火山に  
 関心をお持ちの方の参加を広く歓迎します。このワーク  
 ショップは講演会ではなく、情報交換と議論に主体を置  
 く Discussion Meeting です。話題提供を希望される方は  
 世話人までご一報ください。

\*\*\*\*\*  
 話題提供：  
 鵜川元雄（日大）「富士火山の地震学」  
 相澤広記（東大地震研）「富士火山周辺の比抵抗構造  
 と温泉水同位体比」  
 ○中島淳一（東北大）「富士火山周辺の地震波トモグラ  
 フィ」  
 ○高橋正樹（日大）「伊豆箱根地域のテクトニクスと  
 富士火山」  
 高田 亮（産総研）「割れ目噴火から見た富士山の噴  
 火史と浅部マグマ供給系」  
 佐藤博明（元・神大）「新富士火山の浅部溜り：鉱物  
 組成からの考察」

富樫茂子 (元・産総研)「新富士火山マグマの K2O-SiO<sub>2</sub> トレンド

高橋栄一 (東工大)「富士火山の深部マグマ供給系と火山活動」

中村仁美 (東工大)「中部日本テクトニクス場からみる富士火山」

\*\*\*\*\*

○は 30 分程度, そのほかは 15 分以内の講演. 講演に続いて参加者による討論.

世話人: 東工大・高橋栄一 [etakahas@geo.titech.ac.jp](mailto:etakahas@geo.titech.ac.jp)  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 7 日送信しました)

【SELENE シンポジウム】

来年 1 月 23 日 (水) から 25 日 (金) にかけて月科学と探査に関する国際シンポジウム (SELENE シンポジウム) を JAXA 宇宙科学研究所相模原キャンパスにて開催いたします. また, かぐやデータの利用に向けたインストラクションや将来の月探査のあり方を議論する一般向けのパネルディスカッションも企画しております.

月探査衛星かぐやの搭載機器データを用いた解析結果の議論を中心に月科学, 将来の月探査について多数のご講演, 活発な議論をお待ちしております.

予稿メ切は 2012 年 11 月 26 日です. 英文で A4, 2 ページ以内であれば形式は特に拘りませんが, LPSC の予稿形式を推奨します.

参加登録, 予稿投稿のウェブページがオープンしましたら別途お知らせいたします.

以上よろしく願い申し上げます.

コンビナー:

國中 均 (JPEC/JAXA プログラムディレクター)

中村正人 (ISAS/JAXA 研究総主幹)

SELENE シンポジウム組織委員会

Email: [selene\\_symp\\_2013@planeta.sci.isas.jaxa.jp](mailto:selene_symp_2013@planeta.sci.isas.jaxa.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 9 日送信しました)

【地球化学研究協会「公開講座」のお知らせ】

地球化学研究協会は, 12 月 1 日第 49 回の霞ヶ関環境講座を, 続いて第 40 回の三宅賞受賞者の受賞記念講演を予定しています.

ご関心のある方はご募集下さい.

講座「炭素 14 から探る過去の気候変動」

講師: 今村峯雄先生 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

受賞記念講演「先端計測技術に基づくオゾンおよびブ  
ラックカーボンの大気環境への影響」

三宅賞受賞者:「近藤豊博士 (東京大学大学院理学系研究科教授)

日 時: 2012 年 12 月 1 日 (土 14): 30~

場 所: 霞ヶ関ビル 35 階東海大学校友会館

(地下鉄銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関, 下車)

参加費: 賛助会員および学生は無料, 一般 1,000 円 (資料代を含む), 懇親会へも参加できます.

当日も受け付けますが, 参加人数把握のため [t-sagi@m3.gyao.ne.jp](mailto:t-sagi@m3.gyao.ne.jp) までお知らせ下さると幸いです.

地球化学研究協会ホームページ: <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 14 日送信しました)

○その他のお知らせ・案内

【日本地球惑星連合 2013 年大会のセッション提案開始】

日本地球惑星連合 2013 年大会のセッション提案が始まりました. セッション提案締め切りは 10 月 26 日です. 日本火山学会は日本地球惑星科学連合の団体会員であり, 日本火山学会を提案母体としたセッション提案が可能です. その場合にはセッション提案時に以下の情報を火山学会事務局 ([kazan@khaki.plala.or.jp](mailto:kazan@khaki.plala.or.jp)) までご連絡ください.

- 1) セッション名, 2) 提案者 (代表コンビナー), 3) 共同コンビナー予定者, 4) セッション内容の概要, 5) 他の提案母体学協会 (予定がある場合)

会員の皆さまの積極的なセッション提案をお願いいたします.

JpGU2013 年大会につきましては, 以下のホームページをご覧ください.

2013 年連合大会:

<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>

セッション提案受付:

[http://www.jpгу.org/meeting/session\\_proposal.html](http://www.jpгу.org/meeting/session_proposal.html)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 18 日送信しました)

【火山学会 T シャツの販売について】

みなさま

火山学会事業委員会からお知らせです.

事業委員会では火山学会シンボルマーク (ロゴ) の普及のため, ロゴ入り T シャツを作製しました.

火山学会秋期大会会場の受付にて販売します. ぜひ火山学会会場で品物を手にとってご覧下さい.

全 7 色, シルクプリント加工, 落ち着いた色合いで長

持ちするヘビーウェイトタイプとフィールドワークで役立つビッドな色合いのドライタイプの2種類を用意。

サイズはLMの2種類です。

価格は、一枚1000円(税込)です。

数量が限られていますので、お早めにお求め下さい。

また、あわせて昨年作製しました火山学会マグカップも販売します。

こちらは、残部稀少です。こちらもお早めにお求め下さい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月11日送信しました)

### 【「火山」57巻3号目次】

「火山」57巻3号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====

・論説「1888年磐梯山水蒸気爆発に関するノート

(1) 爆発源の位置と噴出方向に関する再検討」

著者：浜口博之・植木貞人

1888年の磐梯山水蒸気爆発については、事実に合う説明を考えるよりも、説明に合うよう事実を単純化する解釈を下した関谷・菊池の噴火イメージに長期間拘束されてきた。本論説は過去のイメージからの脱出に向けた第1報として、新たな水蒸気爆発のモデルを提示した。

・論説「1888年磐梯山水蒸気爆発に関するノート

(2) 「東国旅行談」に描かれた火山活動の含意」

著者：浜口博之・植木貞人

磐梯山水蒸気爆発の問題解決には120余年の歴史の方程式を解く必要がある。第2報では旅行記に素描された天明の頃に発生した噴火活動の含意を読みとり、明治の噴火過程の理解の一助とした内容を提示した。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月19日送信しました)

### 【IAVCEI2013 学術総会案内】

日本火山学会会員各位

2013年7月鹿児島市にて開催予定のIAVCEI2013学術総会の2ndサーキュラーが公開しましたので、ご案内致します。

<http://www.iavcei2013.com/>

登録システム(登録・投稿の申請)、会場・宿泊案内、巡検の詳細案内などは未完成で、近日公開予定です。

公開時には再度学会MLにご案内致します。

火山学会の維持会員・学術会員は割引登録料が適用さ

れます。

日本の火山学の成果を示すとともに、IAVCEI2013を成功させ、火山学のより一層の発展のために、会員の皆様の積極的なご参加をよろしくお願い致します。

IAVCEI2013 実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月26日送信しました)

### 【男女共同参画学協会連絡会・第3回大規模アンケートへのご協力をお願いします!】

男女共同参画学協会連絡会では、研究者・技術者を取り巻く現状を把握するために、第3回大規模アンケートを実施致します。連絡会では、これまで2003年、2007年の2回にわたり大規模アンケート調査を行い、それぞれ約2万人の回答を得ました。それらの調査結果は若手・女性研究者や技術者が直面する様々な問題点を議論する上での統計的根拠として、現在も様々な場面で引用されております。また、それに基づいて作成した提言は、国の政策決定に反映されており、実際に様々な支援策が講じられてまいりました。このようなアンケート調査を継続して実施することは、男女共同参画の実情やその認識の変化を明らかにし、実施されている政府事業の効果を検証し、さらに新たな課題を見出す上で大変重要と考えております。

アンケート回答期間(2012年11月1日(木)~11月30日(金)中に、アンケート回答URL <https://wss2.5star.jp/survey/index/n3dd5zyv/4134/> にアクセスしていただき、ご回答下さい。

併せて、男女共同参画学協会連絡会HP <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html> に記載の情報もご確認いただけますと幸いです。

多くの皆様からのご協力をお願い申し上げます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月30日送信しました)

### 【IAVCEI2013Web 参加登録開始のお知らせ】

IAVCEI2013学術総会が2013年7月20-24日に鹿児島市にて開催予定です。

Web参加登録を開始しましたので、ご案内致します。

<http://www.iavcei2013.com/>

火山学会の維持会員・学術会員は割引登録料が適用されます。

日本の火山学の成果を世界に示すとともに、IAVCEI2013を成功させ、火山学をより一層発展させるために、会員の皆様の積極的なご参加をよろしくお願い致します。

## IAVCEI2013 実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月7日送信しました)

## ○火山学会秋季大会関連のお知らせ

## 【「懇親会」事前申込のお願い】

懇親会に参加される方はE-mailで★事前申込み★をお願いします。当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただく場合もあります。ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。懇親会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

日 時：10月15日(月曜日)18時30分～20時30分

会 場：軽井沢プリンスホテル ウエスト「千曲の間」  
(<http://www.princehotels.co.jp/karuizawa-area/>)

事前予約締め切り：★9月14日(金)17時。

参加費：一般 5,000円(★当日は6,000円)、学生3,000円(★当日は4,000円)

会場までの移動手段：

- (1) しなの鉄道(17:39 御代田発-17:54 軽井沢着 300円) 駅より徒歩10分  
注) しなの鉄道時刻は2012年8月20日現在のものです。時刻表は改正される場合があります。

- (2) ホテル送迎バス(学会場17:30頃発 所要時間30分)

★事前予約制(500円)先着47名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
(\_at\_を@に置き換えてください)

申込みフォーム：

メールの件名(タイトル名)【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
- (4) 一般(5,000円)/学生(3,000円)
- (5) 送迎バス希望(500円)有/無

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月21日送信しました)

## 【日本火山学会2012年秋季大会アルバイト募集のお知らせ】

2012年10月13日～16日において、「エコールみよた」におきまして火山学会秋季大会および関連の行事が行われます。

学会期間中、学会運営に関して手伝っていただけるア

ルバイトの方を以下のように若干名募集いたします。

アルバイトの対象：学部学生および大学院生

アルバイトの人数：若干名

アルバイトの条件：時給1000円、交通費支給なし

※アルバイト時間が半日以上になる場合は、昼食代を支給します。

アルバイト時間：10月13日午後～16日午後の間で、半日単位。

アルバイト内容：会場準備、学会・懇親会受付、講演会におけるタイムキーパー、照明、マイク係

申し込み締め切り：9月14日(金)17時

応募人数を超えた場合は、先着順とさせていただきます。

申込・問い合わせ先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
(\_at\_を@に置き換えてください)

アルバイト申し込みフォーム

メール件名「火山学会アルバイト応募」

- 
1. 名前(ふりがな)
  2. 所属
  3. 学年
  4. 連絡先電話番号
  5. 連絡先メールアドレス
  6. 以下のうち、不可能な時間枠(具体的な時間は個別に相談)
    - 10月13日午後12:00-
    - 10月14日午前8:45-
    - 10月14日午後13:30-
    - 10月15日午前8:45-
    - 10月15日懇親会受付17:00-
    - 10月16日午前8:45-
    - 10月16日午後13:00-
  7. 特があれば希望の仕事など
  8. その他
- 

火山学会2012年秋季大会実行委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月29日送信しました)

## 【秋季大会プログラムの公開】

日本火山学会の皆さま

10月14～16日に長野県御代田町で開催される秋季大会には188件の講演申込がありました。

皆さんの積極的な発表申込ありがとうございます。

プログラム編成委員会で検討の結果、大会ホームページにて暫定のプログラムを公開しました。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/>

正式版は pdf ファイルにて配布する予定です。

大会期間は軽井沢の秋の観光シーズンと重なり交通・宿泊施設も混雑が予想されます。

お早めのご予約をお勧めします。

また、10月15日(月)夜に開催される懇親会の事前締切も迫っています。

参加希望者は忘れずにお申し込みください。

事前予約締め切り：★9月14日(金)17時。

参加費：一般 5,000円(★当日は6,000円)、学生3,000円(★当日は4,000円)

会場までの移動手段：

(1) しなの鉄道(17:39 御代田発-17:54 軽井沢着 300円) 駅より徒歩10分

(2) ホテル送迎バス(学会場17:30頃発 所要時間30分)

★事前予約制(500円) 先着47名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：[asama-jvc2012-core\\_at\\_eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:asama-jvc2012-core_at_eri.u-tokyo.ac.jp)

(\_at\_を@に置き換えてください)

申込みフォーム：

メールの件名(タイトル名)【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
  - (2) 所属
  - (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
  - (4) 一般(5,000円)/学生(3,000円)
  - (5) 送迎バス希望(500円)有/無
- 必ず【懇親会申込】としてください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月4日送信しました)

【日本火山学会2012年秋季大会アルバイト募集のお知らせ(再)】

※日本火山学会2012年秋季大会のアルバイトを募集について再度ご連絡申し上げます。

2012年10月13日～16日において、「エコールみよた」におきまして火山学会秋季大会および関連の行事が行われます。

学会期間中、学会運営に関して手伝っていただけるアルバイトの方を以下のように若干名募集いたします。

アルバイトの対象：学部学生および大学院生

アルバイトの人数：若干名

アルバイトの条件：時給1000円、交通費支給なし

※アルバイト時間が半日以上になる場合は、昼食代を

支給します。

アルバイト時間：10月13日午後～16日午後の間で、半日単位。

アルバイト内容：会場準備、学会・懇親会受付、講演会におけるタイムキーパー、照明、マイク係

申し込み締め切り：9月14日(金)17時

応募人数を超えた場合は、先着順とさせていただきます。

申込・問い合わせ先：[asama-jvc2012-core\\_at\\_eri.u-tokyo.ac.jp](mailto:asama-jvc2012-core_at_eri.u-tokyo.ac.jp)  
(\_at\_を@に置き換えてください)

アルバイト申し込みフォーム

メール件名「火山学会アルバイト応募」

- 
1. 名前(ふりがな)
  2. 所属
  3. 学年
  4. 連絡先電話番号
  5. 連絡先メールアドレス
  6. 以下のうち、不可能な時間枠(具体的な時間は個別に応相談)  
10月13日午後12:00-  
10月14日午前8:45-  
10月14日午後13:30-  
10月15日午前8:45-  
10月15日懇親会受付17:00-  
10月16日午前8:45-  
10月16日午後13:00-
  7. 特があれば希望の仕事など
  8. その他

---

火山学会2012年秋季大会実行委員会  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月4日送信しました)

【「懇親会」事前申込のお願い】

※日本火山学会2012年秋季大会・懇親会の事前申込について再度ご連絡申し上げます。

懇親会に参加される方はE-mailで★事前申込み★をお願いします。

当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただく場合もあります。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

懇親会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

事前予約締め切り：★9月14日(金)17時。

参加費：一般 5,000 円（★当日は 6,000 円）、学生 3,000 円（★当日は 4,000 円）

会場までの移動手段：

- (1) しなの鉄道（17：39 御代田発-17：54 軽井沢着 300 円）駅より徒歩 10 分
- (2) ホテル送迎バス（学会場 17：30 頃発 所要時間 30 分）

★事前予約制（500 円）先着 47 名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
（\_at\_を@に置き換えてください）

申込みフォーム：

メールの件名（タイトル名）【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
  - (2) 所属
  - (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
  - (4) 一般（5,000 円）/ 学生（3,000 円）
  - (5) 送迎バス希望（500 円）有 / 無
- 必ず【懇親会申込】としてください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 10 日送信しました）

【「懇親会」事前申込のお願い】

※日本火山学会 2012 年秋季大会・懇親会の事前申込についてご連絡申し上げます。

9 月 12 日までに申込みをされた方々には、確認メールを差し上げております。

申込んだにも関わらず、確認メールの届いていない方がいらっしゃいましたら、asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp まで、御連絡ください。

申込みがまだの方は、締切間近です。★事前申込み★をお願いします。

当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただく場合もあります。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

懇親会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

事前予約締め切り：★9 月 14 日（金）17 時。

参加費：一般 5,000 円（★当日は 6,000 円）、学生 3,000 円（★当日は 4,000 円）

会場までの移動手段：

- (1) しなの鉄道（17：39 御代田発-17：54 軽井沢着 300 円）駅より徒歩 10 分

(2) ホテル送迎バス（学会場 17：30 頃発 所要時間 30 分）

★事前予約制（500 円）先着 47 名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
（\_at\_を@に置き換えてください）

申込みフォーム：

メールの件名（タイトル名）【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
  - (2) 所属
  - (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
  - (4) 一般（5,000 円）/ 学生（3,000 円）
  - (5) 送迎バス希望（500 円）有 / 無
- 必ず【懇親会申込】としてください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 13 日送信しました）

【本日 17 時締切★「懇親会」事前申込み】

9 月 13 日までに申込みをされた方々には、確認メールを差し上げております。

申込んだにも関わらず、確認メールの届いていない方がいらっしゃいましたら、asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp まで、御連絡ください。

申込みがまだの方は、★本日 17 時締切★です。事前申込みをお願いします。

参加費：一般 5,000 円（★当日は 6,000 円）、学生 3,000 円（★当日は 4,000 円）

会場までの移動手段：

- (1) しなの鉄道（17：39 御代田発-17：54 軽井沢着 300 円）駅より徒歩 10 分
- (2) ホテル送迎バス（学会場 17：30 頃発 所要時間 30 分）

★事前予約制（500 円）先着 47 名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
（\_at\_を@に置き換えてください）

申込みフォーム：

メールの件名（タイトル名）【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
- (4) 一般（5,000 円）/ 学生（3,000 円）

(5) 送迎バス希望 (500 円) 有 / 無  
必ず【懇親会申込】としてください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 14 日送信しました)

【本日 24 時まで締切延長★「懇親会」事前申込み】

おかげさまで、120 人を越える申込みを頂き、火山学会 2012 年秋季大会懇親会の開催に目処が立ちました。事前申込みにご協力くださった皆様、ありがとうございます。

事前申込みの締切を、★本日 24 時まで延長★します。機会を逃さずお申し込み下さい。

明日以降の参加申込みは、★当日料金★とさせていただきます。

なお、明日以降でも、事前にお知らせ頂けると、運営上、大変助かります。

当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただきます場合もあります。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

懇親会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

参加費：一般 5,000 円 (★当日は 6,000 円)、学生 3,000 円 (★当日は 4,000 円)

会場までの移動手段：

- (1) しなの鉄道 (17:39 御代田発-17:54 軽井沢着 300 円) 駅より徒歩 10 分
- (2) ホテル送迎バス (学会場 17:30 頃発 所要時間 30 分)

★事前予約制 (500 円) 先着 47 名

予約された方は、ご希望により懇親会場から御代田駅までの帰りも優先的にご乗車になれます。

申込先：asama-jvc2012-core\_at\_eri.u-tokyo.ac.jp  
(\_at\_を@に置き換えてください)

申込みフォーム：

メールの件名 (タイトル名) 【懇親会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名
  - (2) 所属
  - (3) 連絡先メールアドレス・電話番号
  - (4) 一般 (5,000 円) / 学生 (3,000 円)
  - (5) 送迎バス希望 (500 円) 有 / 無
- 必ず【懇親会申込】としてください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 14 日送信しました)

【「懇親会」事前申込について】

おかげさまで、125 人のお申込みを頂き、盛況な懇親会が開催できそうです。

事前申込みにご協力くださった皆様、ありがとうございます。

★申込みをされた方々には、確認メールを差し上げております。

申込んだにも関わらず、確認メールの届いていない方がいらっしゃいましたら、asama-jvc2012-core@eri.u-tokyo.ac.jp まで、御連絡ください。

なお、事前申込みは締切とさせていただきますでしたが、懇親会への参加を希望される方は、お早めにお知らせ頂けると、運営上、大変助かります。

当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただきます場合もあります。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

懇親会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 18 日送信しました)

【秋季大会プログラム変更のお知らせ】

10 月 14 日から始まる日本火山学会秋季大会学術講演会におきまして、正式プログラム (pdf 版)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2012/images/VSJ2012Program.pdf> の公開以降、以下のプログラム変更がありました。

●発表キャンセル

P1-10 東北日本弧南部、高原火山における山体形成史とマグマ供給系の発達 (発表者：弦巻賢介)

●発表時間変更

P1-11 北海道東部、アトサヌプリ火山の爆発的噴火史の再検討 (発表者：長谷川健・中川光弘・他)

15 分繰り上げて、10 月 14 日 B 会場 12:30~12:45  
なお、都合により、講演をキャンセルする場合は、口頭・ポスター講演を問わず、速やかに大会事務局 (kazan-taikai@ymail.plala.or.jp) に必ずご連絡ください。

事前連絡がない場合は、大会運営に支障をきたすほか、わざわざ講演を聴講するために大会に参加したかたに失礼になります。

ご協力をよろしく願います。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 12 日送信しました)

**【日本火山学会秋季大会 学生優秀発表賞 授賞者発表】**

先週長野県御代田町で開催された日本火山学会秋季大会における学生優秀発表賞の受賞者が以下の4名決まりました。

ポスター発表部門の2名は大会会場最終日に表彰状と副賞の授与が行われました。口頭発表部門の表彰は後日実施されます。

学生優秀発表賞は、学生会員が発表する口頭またはポスター発表を対象に、大会委員会で依頼した審査員による公正な審査を行ない、その中で特に優秀な研究発表を選考し表彰するものです。

今回は口頭発表18件、ポスター発表27件の学生会員の発表を34名の審査員が審査しました。

来年の秋季大会でも学生優秀発表賞の選考が行われる予定です。

また5月に開催される連合大会でも、地球惑星科学セッションで学生優秀発表賞の選考がおこなわれる予定です。

学生会員の皆さんには、優秀発表賞の受賞をめぐして、立派な研究成果をまとめることを期待しています。

—受賞者および研究発表題目—

**●松本恵子（東北大学大学院理学研究科）A2-01**

桜島大正噴火軽石に含まれる磁硫鉄鉱の脱硫化反応：マグマの酸化速度計の開発にむけて

**●無盡真弓（東北大学大学院理学研究科）B1-21**

新燃岳2011年噴火噴出物中にみられるナノライトの晶出過程

**●森田考美（富山大学大学院理工学教育部）P52**

構成物組成及び本質物の全岩組成から見た

男体今市テフラを形成したプリニー式噴火の推移とマグマ供給系

**●大類 瞬（神戸大学大学院理学研究科）P57**

三瓶火山の太平山火砕堆積物の形成過程

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月23日送信しました）